

平成26年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

				整理番号	4 - 3 - 8
事務事業名	金磯地区避難路整備事業			担当課係	まちづくり推進課 下水道担当
総合計画上の位置付け	大項目	1. 「安全」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	①災害被害の減少		内線等	
	小項目	3. 地震や津波の被害を軽減する減災のまちづくり		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	7 都市計画費
	目	3 93	都市下水道費 都市下水道費（繰越明許費）	事業	10 金磯地区避難路整備事業
開始年度	平成 25	年度	根拠法令・要綱等	道路法	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 金磯地区の住民が大規模地震に伴う津波の発生のある際に、津波緊急一時避難場所である金磯南雨水ポンプ場への避難路を整備する。
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 県道120号から、金磯南雨水ポンプ場への進入路を市道として整備することにより、県道西側の住民も迅速に雨水ポンプ場へ避難することを可能にする。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） この道路予定地はもともと市の水路だったが、この水路の南東側に雨水ポンプ場を整備するにあたり、水路部分にポンプ場へ繋がる幹線函渠を建設した。その幹線函渠の上を市道として工事を行うものである。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 金磯南雨水ポンプ場を整備する際に、当初は金磯地区で浸水被害が発生した際にポンプ場を一時的な津波避難場所として位置づけ、ポンプ場の建設時から当避難路の計画はされていた。そこに平成23年に発生した東日本大震災を踏まえ、雨水ポンプ場に耐津波機能を付与することとしたため、避難路である市道についても津波避難路としての性格を帯びることとなった。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果	
	道路延長		市道として整備する道路の延長					
	単位		H25	H26	H27	H28		将来目標 （年度：平成）
m	目標			133	45		178 平成27年度	全体計画178mのうち133mまでは26年度で道路構造物布設済。 27年度は舗装及び残りの45mの整備を行う。
	実績			133				
	達成度			100.0%				
活動実績・参考となる指標	指標名	単位		H25	H26	H27	H28	指標の説明
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		25年度決算		26年度決算		27年度決算		26年度予算		
全体コスト（円）	関連事業費	A	直接事業費	0	37,245,850	0	0	0	37,247,000	
		財源内訳	国県支出金		15,000,000					
			地方債		19,400,000					
			利用者負担							
			一般財源	0	2,845,850					
	B	人件費 ①×②	0	2,198,031		0				
		職員平均人件費①	0	7,326,769						
	従事した割合②/人	0.00	0.30							
	A + B	0	39,443,881		0					
単位コスト	活動指標の説明		津波避難路として整備する延長1m当たり						備考	
	活動指標1単位当たりコスト		296,571						平成25年4月1日現在 人口40,733人	
	市民一人あたりのコスト		978						平成26年4月1日現在 人口40,333人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 避難場所となる施設等への避難路整備については災害に備える施策として、今後も重要度が増すものと予想される。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) ポンプ場への避難路としての機能に加え、ポンプ場よりさらに東側に住む市民にとっては、生活道路としての期待が高い。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	これまで金磯南雨水ポンプ場の場所への進入路は南側の堤防道路のみであったため、より住宅地に近いところからポンプ場への進入路を整備することは避難路の性質上からも必要性は高い。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	ポンプ場という市の施設に避難するための道路であるので、市道として整備するため、市が行う必要がある。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="checkbox"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> ① 効率的である	ポンプ場建設の関連事業として国の補助事業を充てている。また、市道の位置も、下に幹線函渠が埋まっている箇所であるため、効率的である。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="checkbox"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="checkbox"/> ① 緊急性が高い	南海トラフ巨大地震はいつ発生してもおかしくない状態であるので、避難路整備の緊急性はある。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="checkbox"/> ① 成果が上がっている	まだ、舗装等の市道としての供用に向けた整備が完了していないが、27年度中には整備を終え、供用を開始する予定である。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="checkbox"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	早期に仕上げの工事をを行い、供用を開始することが求められる。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評 価	2	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定 評価点 73 2	判定に至った理由 供用のためには残りの舗装等の整備を行う必要があるため、引き続き供用開始に向けた整備を進める。
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
		3 改善・効率化し継続	50 ~ 59 点		
		4 見直しの上縮小する	40 ~ 49 点		
		5 終期設定し終了	30 ~ 39 点		
		6 休 止	20 ~ 29 点		
		7 廃 止	19 点 以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

(具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述))

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評 価	2	1 拡 充 す る	判定説明 金磯南雨水ポンプ場が建設された場所は、周辺に津波発生時に避難できるような高い建物がなく、金磯地区の住民にとっては命を守るための重要な緊急一時避難施設となる。 主要道路である県道からこの雨水ポンプ場へ繋がる道路を整備することは円滑な避難行動のためにも早期完成が必要である。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	